令和元年度　第３回大田区高齢者福祉計画・介護保険事業計画推進会議
議事録（要旨）

日　　時　令和２年２月10日（月）午後１時30分～午後２時20分

会　　場　消費者生活センター　大集会室

出席委員　佐藤会長、遠藤委員、丸山委員、瀧委員、渕上委員、中原委員、森部委員、深澤委員、春澤委員、冨井委員、御任委員、常安委員、冨田委員、藍原委員、田中委員、塩津委員

区側出席者　福祉部長（今岡正道）、福祉管理課長（有我孝之）、福祉部副参事〈地域福祉推進担当〉（大渕ひろみ）、高齢福祉課長（酒井敏彦）、元気高齢者担当課長（長岡誠）、福祉部副参事〈高齢者住宅担当〉（澤富男）、介護保険課長（小西博幸）、大森地域福祉課長（田邉明之）、調布地域福祉課長（内藤禎一）、蒲田地域福祉課長（茂呂英雄）、糀谷・羽田地域福祉課長（澤健司）、健康政策部災害時医療担当課長（上田哲也）、健康政策部副参事〈地域保健担当〉（関香穂利）、まちづくり推進部住宅担当課長（榎田隆一）

傍 聴 者　５人

欠席委員　藤原委員、安達委員、正林委員、中村委員、松坂委員

次　　第

１　開　会
２　福祉部長あいさつ
３　報告事項
　（１）令和元年度大田区高齢者等実態調査の速報値について
　（２）令和２年度　計画推進会議開催スケジュールについて
　（３）令和２年度予算案プレスについて
４　閉　会

配布資料

・資料番号１　令和元年度大田区高齢者等実態調査　速報値
・資料番号２　令和２年度大田区高齢者福祉計画・介護保険事業計画推進会議・庁内検討会　予定表
・資料番号３　令和２年度　大田区予算（案）概要（抜粋）

【　会議の要旨　】

１　開　会

２　福祉部長あいさつ

３　報告事項

（１）令和元年度大田区高齢者等実態調査の速報値について

会　　長　：　それでは、報告事項の（１）になります。令和元年度大田区高齢者等実態調査の速報値につきまして、事務局からご説明をお願いいたします。

高齢福祉課長　：　［資料番号１に基づき説明］

会　　長　：　ただいま事務局からのご説明に対して、ご意見、ご質問等ございませんか。

私のほうから意見を申し上げます。今回の資料は速報値ではありますが、特徴的な傾向も見えてきています。例えば６ページ、同じような項目がグラフで並んでいますが、先ほどご指摘があったように地域包括ケアを進行させて地域共生社会を目指していくということですので、これは方向性としては私も正しいと思います。

しかし、例えば６ページのところ、この図面だとわかりやすいと思いますが取り組んだほうがよいと思うことで、上のほうにざっと並んでいるのはいずれも身体的なことばかりです。つまり、ボディーをどうやって保つかということにメインが置かれています。しかし、近所づき合いをするとか、地域活動やボランティア活動に参加するというのは、地域包括ケアや地域共生社会の推進にとても重要となるわけですが、こういうウエイトがもともと少ないんですね。そのため、地域共生社会は「我が事・丸ごと・きれいごと」と言われていますが、きれいごとの部分に当たってしまいます。つまり、何を意味しているかというと、実現が非常に難しいということです。ですが、このグラフでいえばご近所のつき合いとか地域活動、ボランティアにご参加をいただく区民の方をたくさん増やすことを目指していくということを私たち委員会で考えないといけない。地域包括ケアを深化させることも、地域共生社会に向かって進むことも難しいところですので、このあたりを特に今後、私たち委員会としてどう考えるかということが大事だと思いました。

（２）令和２年度　計画推進会議開催スケジュールについて

会　　長　：　それでは、次の報告事項でございます。（２）令和２年度計画推進会議開催のスケジュールについて事務局からご説明をお願いいたします。

介護保険課長　：　［資料番号２に基づき説明］

会　　長　：　ありがとうございました。ただいまスケジュールにつきまして、この資料番号２番に基づいてご説明がありました。
　何かご質問、ご意見等ございませんか。

委　　員　：　資料番号２は、第８期の計画の内容、あるいは審議の過程ということだと思います。第７期の総括といいますか、どのように進んでいったか、到達度はどうであったかという項目がないように見受けられますので、５月頃に７期の振り返りをやらないと、８期というところにはいかないと思います。ぜひその内容を入れていただきたいと思います。
　先ほど会長から、近所づき合いや地域活動、ボランティア活動が重要だというお話がありましたが、元気シニアプロジェクトも、地域ぐるみで介護予防に取り組んでいこうというもので、７期の柱の一つだったと思います。その辺がどういうふうになっていったか、３地区でモデル事業をして、それからほかの地域にそれを広げていこうというのが計画だったはずでありますので、その辺も含めて７期の振り返りをぜひ項目に入れていただきたいと思います。

会　　長　：　それは５月28日の推進会議開催のときにご報告という形でいいですか。

委　　員　：　８月から第８期を検討するのであれば、できれば５月にその項目を入れてほしいなと思います。

会　　長　：　この５月28日でよろしいですね。

委　　員　：　はい、とにかく前半のうちに、入れていただければなと思います。

会　　長　：　このときは令和元年度の実施状況のご報告もいただけるようですので、過去３か年の振り返りもご報告をいただきたいという、そういう趣旨でございますね。
　いかがでしょうか。

介護保険課長　：　実質２年間になろうかと思います。その分につきましては、できるだけ総括をして、ご報告できるように努めてまいりたいと思います。

会　　長　：　そのほかいかがでしょうか。

介護保険課長　：　若干時間がございますので、先ほど資料番号１で地域の分析を少しだけやっておりますので、触れてまいりたいと思います。
　７ページをお開きください。こちらは、取り組んだほうがよいということで、意識として何をお持ちかということを調べたものでございます。

続きまして、めくっていただくと９ページ、それに対して実際実践しているかどうかということで、こちらのほうは対比できるかと思いますので、こちらを少し事務局で対比をしてみました。対比した表はお配りしておりませんので、適宜７ページと９ページをご覧いただければと思います。

やはり体を実際使うというところで、足腰の筋力を鍛えることは、意識として75.1％の方が必要だと感じておられますが、実際体を動かすことをされている方は50％ちょっとというところで、ここでは、やはり２割の人は意識はあるけれど実践はしていないということで、これを地区別に見ますと、どの地区もやはり意識は持っておられますが、実際体を動かすのはそれより少ない方しかしていないということになっております。

また、バランス能力を高めるような運動というところも、やはり14ポイントほど意識のほうは高いものの、実際の動きとしては伴っていないという結果になっております。

あと、高いところでは、右側の認知症にならないような脳トレをすることというところで、こちらも18ポイントほど行動と実際やっている人で、実践している方が少ないということでございます。

実践と意識とが一致しているところ、または実践のほうが多いというところは、たばこのところです。こちらは、意識としては持っている以上の方が実践しているということで、いわゆる他律的な要因でやらざるを得ない方も入ってしまっているのかなというところを感じております。

あと、その隣、お酒の飲み方のところも、実践と意識ということで、場合によっては健康を害してしまったとか、そういったものも他律的要因でやらざるを得なくなってしまっているのかなということで、ここも区全体で見ると、ほとんど意識と実践が一致しているというところでございます。

たばこのことにつきましては、ほとんどの地域で実践が上回っているということで、地域の格差はないという状況でございます。お酒につきましては、多少ばらつきはあるものの、大きく意識と実践がかみ合っていないというところはないということでございます。

この意識のところを各、７ページのほうですね。地域別に見ますと、平均をよく上回っているのは雪谷特別出張所管内ということで、ほとんど上回っているというものが多くなっております。一応上回っていると申し上げたのは、標本誤差を加味しまして10％以上差があるものということで申し上げておきます。１ポイント、２ポイント上回ったというものにつきましては、場合によっては標本誤差ということも考えられますので、そこに有意性があるかどうかというのは、少し難しいかなというふうに思います。

また、実践のほうにつきましては、やはり10％以上平均よりふえているものについては、なかなか苦戦をしていると思われます。

一方、先ほど申し上げた雪谷特別出張所につきましては、平均を10％以上上回るものが多かったということで、多少地域差が出ているというところですが、相対10％以内の振れ幅の地区がやはり多くなっているということでは、

大きな地域的な有意性というのは、まだこれから検証していかなければならないところかなというふうに感じております。

簡単ですが、７ページと９ページの簡単な分析、以上ご紹介させていただきます。

会　　長　：　ありがとうございました。

例えば先ほど申し上げたことと重なりますが、地域とのつながりの必要性の設問が20ページ、21ページとありますが、必要だと思う、どちらかといえば必要だと思うという回答が大体７、８割ぐらいあります。しかし、先ほど申し上げましたように６ページで近所づき合いをするとか、地域活動やボランティア活動に参加するというようなことに、今後取り組みたいと実際に考えている人は少ないという結果になっています。むしろ体を鍛えたい、健康でいたいということだと思います。

大田区として何を目指すかということが問われるわけで、体を鍛えるために老後生きているのかということにもなってはいけないと思います。そうすると、６ページを見ると如実に言えますが、近所づき合いや地域活動、ボランティア活動を一生懸命やり、人の役に立つことによって、外に出て活動しますので、自然に筋力もつくし、活動したらお腹が空くから食事だっていっぱい食べるということにつながるのではないかと思います。たくさん人と触れ合っていれば、脳トレでドリルを解くなど、そういうことをやるよりもより効果が実はあったりするのかもしれません。そういう意味では、自然な形での介入を、私どもの頭の片隅に置いておいて、大田区の方針をどうしていくのかということに、一定程度の見解を持っておいたほうがいいという気がいたします。

（３）令和２年度予算案プレスについて

会　　長　：　それでは、次でございます。報告事項、（３）令和２年度予算案プレスについて、事務局より資料の解説とご説明をお願いいたします。

高齢福祉課長ほか４名　：　［資料番号３に基づき説明］

会　　長　：　ありがとうございました。

ただいま令和２年度の予算案につきましてご説明がありました。

ご質問等ございますか。よろしゅうございますか。ありがとうございます。

それでは、推進会議につきましては、以上をもちまして閉会ということにさせていただきます。課題に対してのご協力ありがとうございました。

では、事務局にお返しいたします。

介護保険課長　：　ありがとうございました。

それでは一度休憩を５分とりまして、14時25分再開で、地域ケア会議の区レベル会議を開催いたします。